



志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和7年度10月号
令和7年10月1日
志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

ゆく夏、そして秋来る

校長 島村 直人

今年は雨も少なく、年々猛暑日も増え、37度、38度と聞いても驚かなくなりまして。そんな夏？も過ぎ去り、いよいよ秋の到来です。秋の彼岸も過ぎ、空気がからっと澄み渡る日も間近です。

9月23日より2泊3日で京都奈良に修学旅行に行ってきました。今年からの秋の修学旅行での「京都奈良も暑かった」が第一声では困りますが、曇りてたまに小雨の天気でしたが動く蒸し暑いといった感じでした。

志木二中の生徒たちはというと、今回しっかり準備の段階から生徒主体で進めていたのが印象的です。1学期の終わりには実行委員長からしおりの原稿の依頼があり、その時すでに自分たちでしっかり修学旅行の目標を「自主自立」と決めておりました。学年全体がこの目標の下に動いているというのがよくわかりました。そこで私からは、「自律」する力を全員が身に付けての参加をお願いしました。（こちらの「自律」には、自らをコントロールするという意味合いがあります）



新幹線などの移動や見学などの班行動においても一人ひとりが協調性や責任感をもち、社会的なルールやマナーを守って志木第二中学校の生徒として誇れる行動がとれていたと思います。

さて、日本には、季節の変化を如実に表現する文芸として俳句があります。私も教員時代毎回修学旅行のたびに、京都奈良を題材に子どもたちと俳句に勤しんだことを思い出します。「575」のわずか17音に時候や天文、人事や自然を盛り込み、自己の生活や人生までも読み込める世界で一番短い詩が俳句です。もうお馴染みとなった、テレビの「プレバト」や「夏井いつきのよみ旅！」という番組もあり若者にもなじみのあるものとなっております。俳句は誰にでも作れる身近な文芸ですが、最低限の決まりがあります。一言で言えば、俳句は原則「有季定型」、つまり5・7・5の17音に季語を一つ入れて作ります。そして、できれば「や・かな・けり・・・」などの「切れ字」を入れて響きを持たせる。俳句は韻文ですから、この切れ字がとても大切なのです。その他、「作り方」として大きく二つのパターン（「一物の句」と「二物衝撃・配合の句」）があるのですが、興味のある方はぜひ調べて、名句をものにしてみてください。季節はいよいよ秋本番です。よい俳句を作る絶好の季節です。